

## 結果の概要 小学校国語

### 全体的な傾向

- 「話すこと・聞くこと」の正答率は、他の領域と比べて高い状況にある。
- 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えて書くことに課題がみられる。
- 「読むこと」の領域では、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことに課題がみられる。
- 修飾と被修飾の関係の理解や句点とかぎの使い方には、依然として課題がみられる。

### 1 出題のねらい

- ①小学校学習指導要領をもとに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と「言語事項」から、すべての児童が理解し、身につけるべき内容について出題した。学年別の問題数については、昨年度とほぼ同じ数に設定した。
- ②「書くこと」では、昨年度の課題を受け、2段落構成のまとまりのある文章を原稿用紙に記述する問題を継続して出題した。
- ③「読むこと」では、第4・6学年の問題数を増やし、「読む能力」の定着をより詳しくみるようにした。また、文学的な文章として初めて詩(第6学年)を出題した。
- ④「言語事項」では、昨年度課題となった内容やこれまで出題していなかった内容も出題した。

### 2 学年別結果の概要

#### 【第4学年】

内容領域	正答率
1・2年言語事項	55.1%
3・4年話すこと・聞くこと	80.5%
3・4年書くこと	65.2%
3・4年読むこと	57.2%
3・4年言語事項	66.0%

#### 【第5学年】

内容領域	正答率
3・4年書くこと	58.2%
3・4年読むこと	60.9%
3・4年言語事項	72.5%
5・6年話すこと・聞くこと	87.7%
5・6年書くこと	53.5%
5・6年読むこと	67.0%
5・6年言語事項	70.5%

#### 【第6学年】

内容領域	正答率
3・4年書くこと	81.5%
3・4年読むこと	50.0%
3・4年言語事項	57.8%
5・6年話すこと・聞くこと	83.9%
5・6年書くこと	64.4%
5・6年読むこと	70.3%
5・6年言語事項	75.9%

評価の観点	正答率 (%)		
	4年	5年	6年
国語への関心・意欲・態度	74.0	72.9	77.0
話す・聞く能力	80.5	87.7	83.9
書く能力	65.2	57.5	70.1
読む能力	57.2	65.7	67.8
言語についての知識・理解・技能	63.5	72.3	73.4

### 3 今回のテスト結果からみた特徴

- 「言語事項」については、各学年とも漢字の読みの問題や、新出問題の四字熟語(第6学年<sup>2</sup>)と仮名遣い(第6学年<sup>2</sup>)の問題の正答率が高い。一方、昨年度課題となった句点とかぎの使い方(第4学年<sup>2</sup>)と修飾と被修飾の関係(第6学年<sup>2</sup>)の問題や、国語辞典や漢字辞典の使い方(第4学年<sup>2</sup>、第5学年<sup>3</sup>)の問題の正答率が低く、その理解や定着に課題がみられる。
- 「読むこと」については、特に説明的な文章を読み取ること(第4学年<sup>3</sup>、第5学年<sup>5</sup>、第6学年<sup>4</sup>)に課題がみられる。
- いずれの学年においても、題意や指示を把握していないと考えられる誤答が多い。